

# 川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～ その1

令和3年 10月  
川越町教育委員会

本年5月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部分を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。



## 1. 学力・学習状況調査結果

### (1) 川越町小学校

□全体の傾向・・・正答率の低い児童数は減少し、学力の向上が顕著に表れている。

**国語**：正答率の低い児童が少なく、正答率が中位からやや高い児童が多くみられる。

**算数**：正答率の低い児童が多少見られ、正答率の中位の児童が多い。

	強みと弱み (強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」)
国語	<ul style="list-style-type: none"><li>◎目的や意図に応じて、理由を明らかにしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。</li><li>◎基礎基本となる漢字の習得や文の構成(主語や述語など)の理解ができています。</li><li>◎全体的に無解答率が低い。</li><li>◇目的や意図に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけて書く力に課題がある。</li><li>◇目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する力に課題がある。</li><li>◇語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う力に課題がある。</li></ul>

算数	<p>◎データをもとに表に整理することができる児童が多い。</p> <p>◎基準量を1としたときに、比較量が示された小数に当たる理由を記述できる児童が多い。</p> <p>◎全体的に無解答率が低い。</p> <p>◇二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する力に課題がある。</p> <p>◇速さを求める除法の式と商の意味を理解できていない児童の割合が多い。</p> <p>◇複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べる力に課題がある。</p>
----	--

(2) 川越町中学校

□全体の傾向・・・正答率が中位よりやや低い生徒が多い。

**国語**：正答率のやや低い生徒が多い。

**数学**：正答率の低い生徒から高い生徒まで同じような割合で存在する中、正答率の高い生徒がやや少ない。

	強みと弱み (強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」)
国語	<p>◎話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える生徒が多い。</p> <p>◎書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができる割合が高い。</p> <p>◎全体的に無解答率が低い。</p> <p>◇文脈の中における語句の意味を理解できていない生徒が多い。</p> <p>◇相手や場に応じて敬語を適切に使う力に課題が見られる。</p> <p>◇伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く力に課題が見られる。</p>

数学

- ◎関数の意味を理解できている生徒が多い。
- ◎事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
- ◎全体的に無解答率が低い。
- ◇データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力に課題がある。
- ◇相対度数の必要性和意味が理解できていない生徒が多い。
- ◇ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現する力に課題がある。

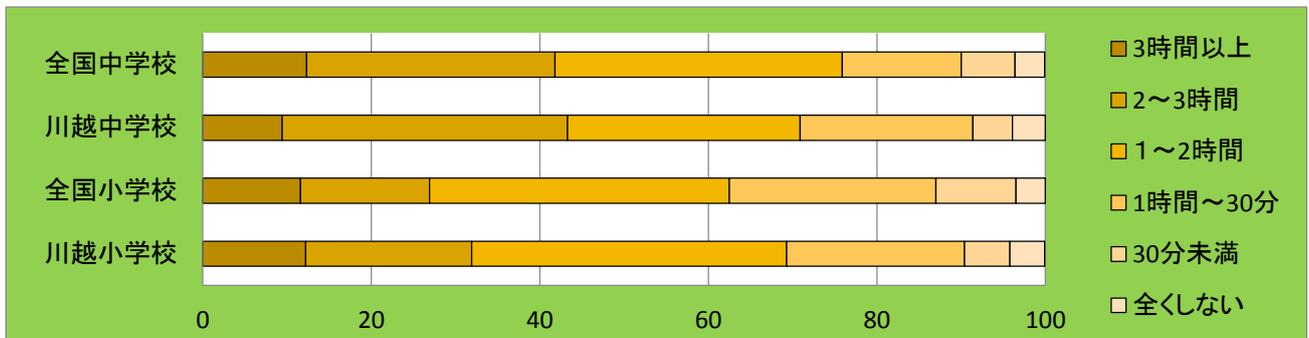
(3) 児童生徒質問紙による生活調査結果

①学習時間帯

\*小中学生共に70%ほどの子どもが、1時間以上家庭学習の時間を確保している。

\*2時間以上家庭学習している割合は小中学校共に全国の割合より高い。

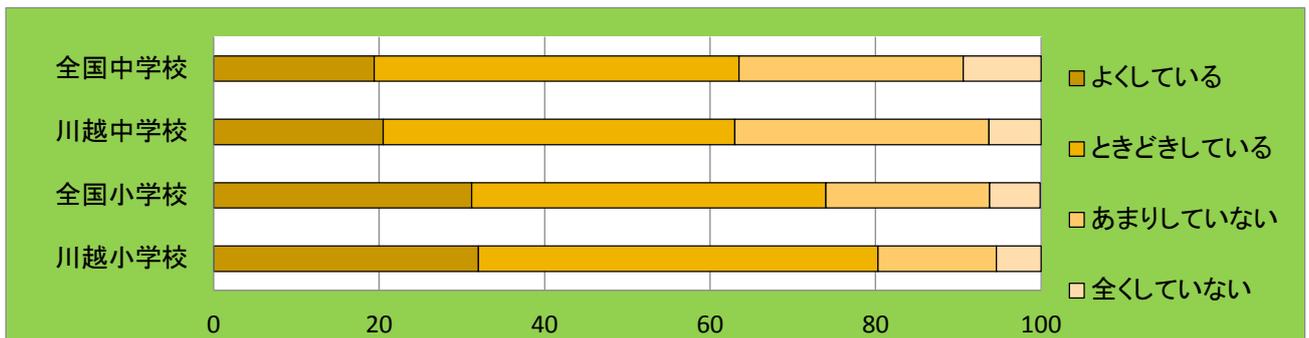
Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師、インターネットで学ぶ学習も含む）



②計画的な家庭学習

\*小学生の80%が自分で計画を立てて勉強しており、全国の割合を上回っている。中学生は全国の割合と同等で63%となっている

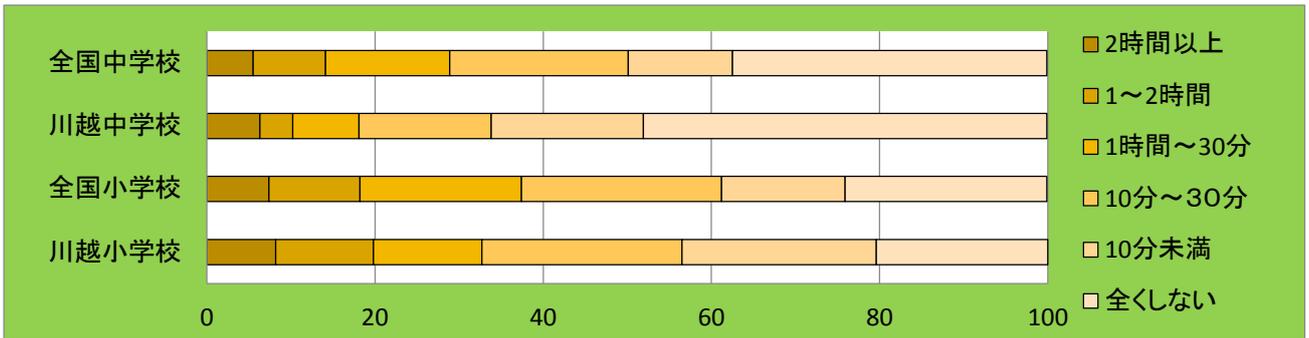
Q：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む）



③読書習慣

**\*町内小中学生の1日あたりの読書時間は短い。**

Q：学校の授業以外に、普段（月～金曜日）1日あたりどのくらい読書をしますか。

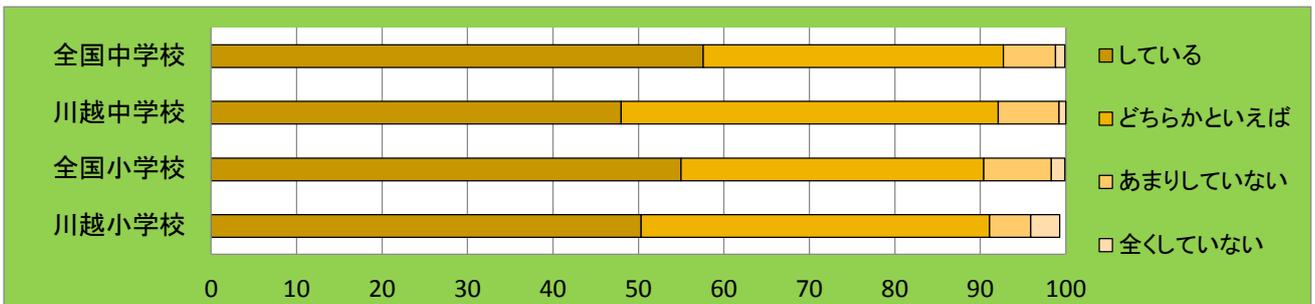


④基本的な生活習慣

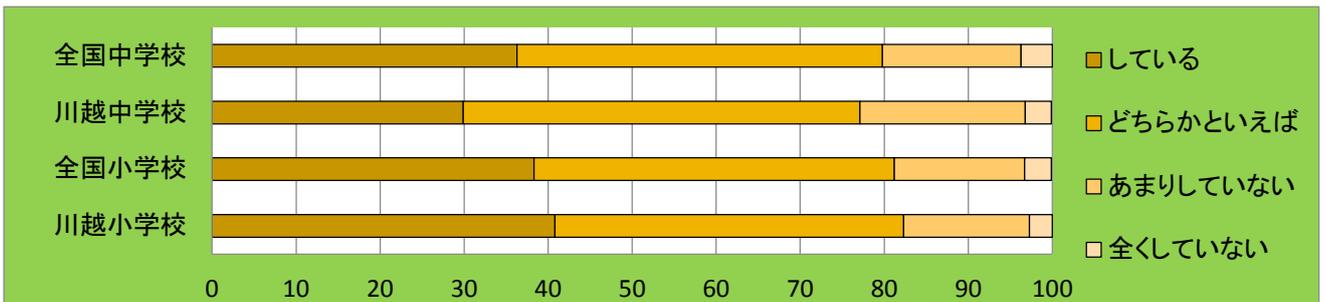
**\*小学生・中学生ともに、ほぼ規則正しい生活を送れているが、起床時刻については約1割、就寝時刻に関しては約2割が不規則である。**

**\*中学校では、毎日朝食を食べていない生徒が約1割いる。**

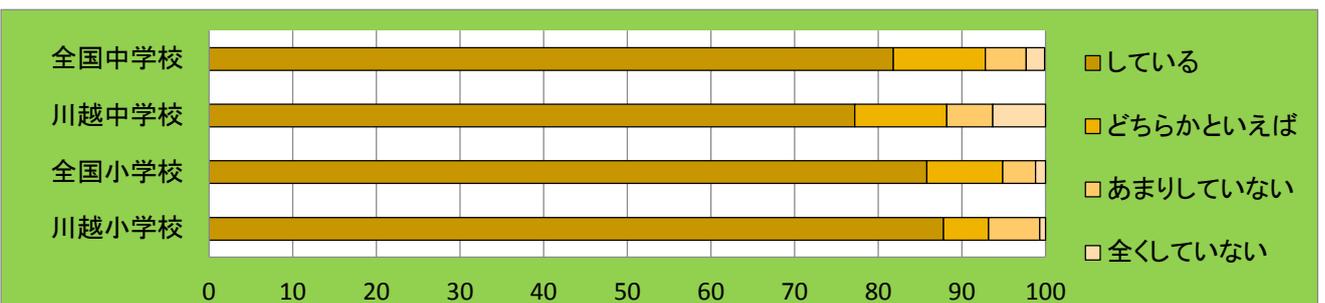
Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



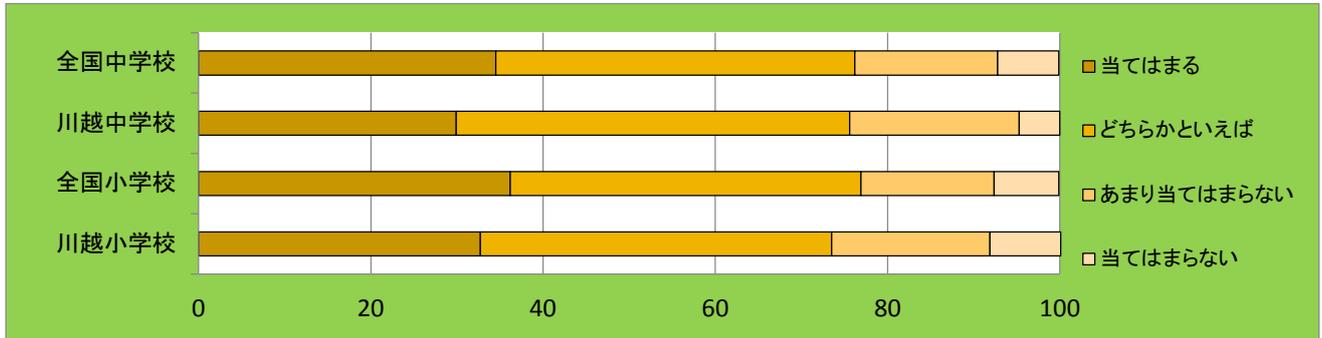
Q：毎日、朝食を食べていますか。



⑤自尊感情

**\*自尊感情の高い子どもの割合は、全国の割合とほぼ同じであるが、「自分には、よいところがある」と思っていない児童・生徒が2割以上いる。**

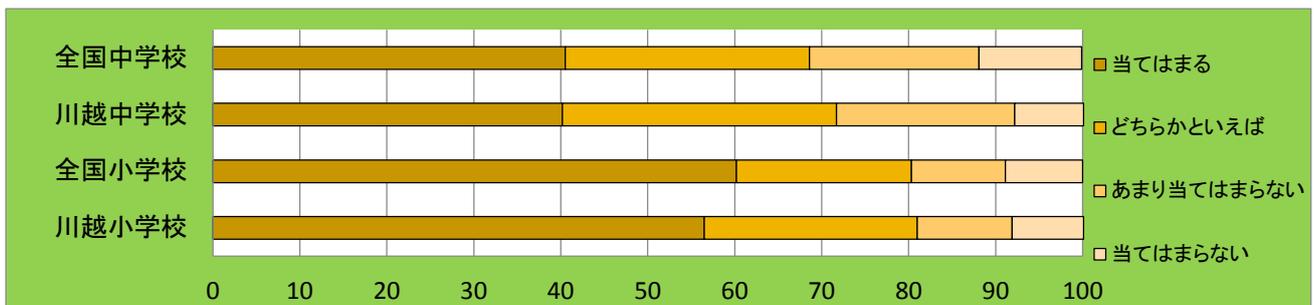
Q：自分には、よいところがあると思いますか。



⑥キャリアの形成

**\*将来の夢や目標を持っている子どもの割合は、全国の割合とほぼ同じであるが、中学生より小学生の方が将来の夢や目標を持っている。**

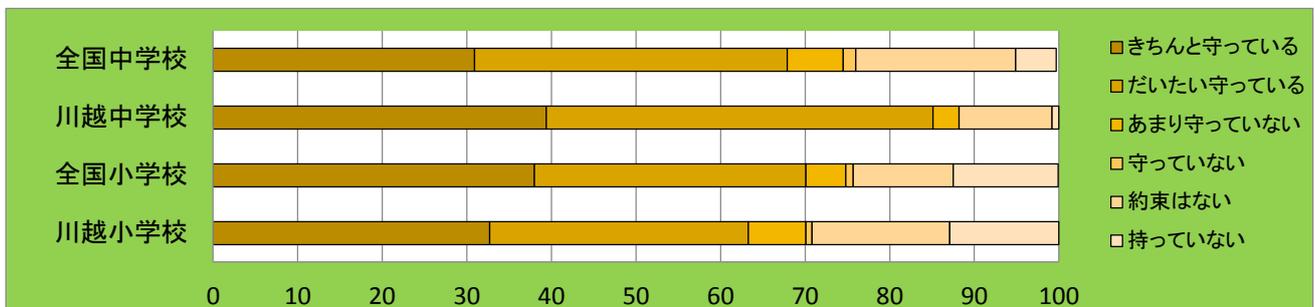
Q：将来の夢や目標を持っていますか。



⑦スマートフォンやコンピュータの使い方

**\*中学生は84%が約束を守れているが、小学生は63%にとどまっている。また、小学生は16%程度が約束はない。**

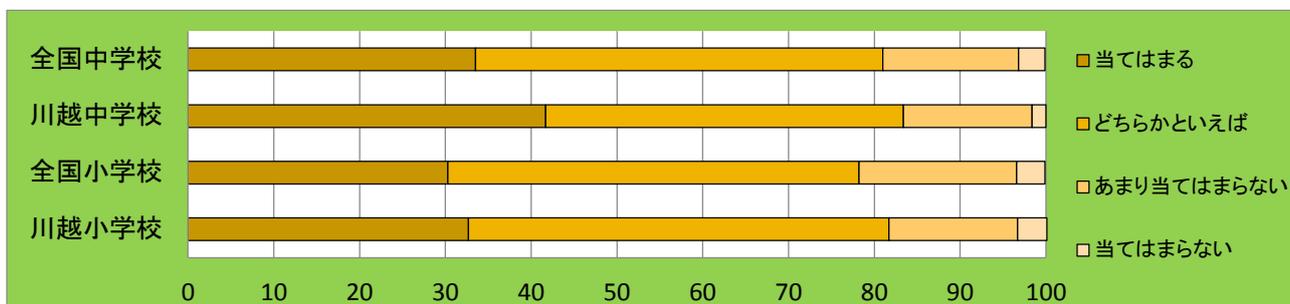
Q：携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



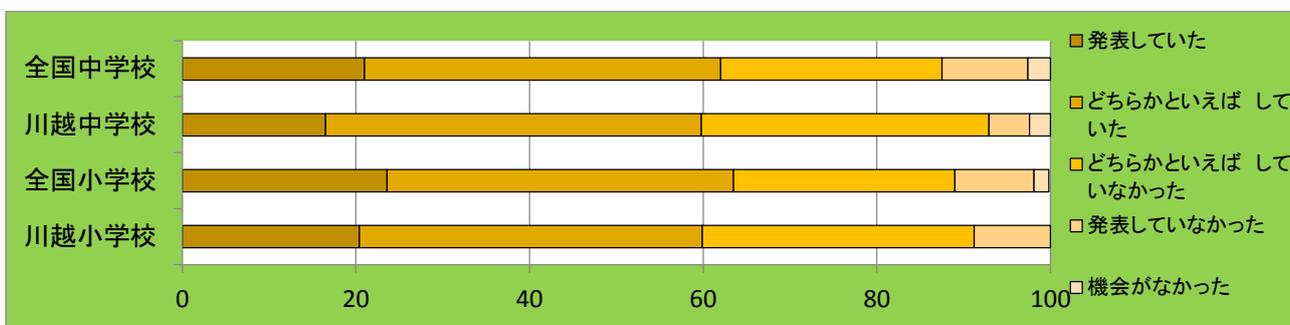
⑧主体的・対話的で深い学びについて

**\*主体的に学習しようとする児童生徒は約8割となっているが、自分の考えをうまく伝えるように工夫して発表することが苦手な児童生徒は約4割である。また、約2割の児童生徒が話し合う活動の中で自分の考えを深めたり広げたりすることが十分にできていない。**

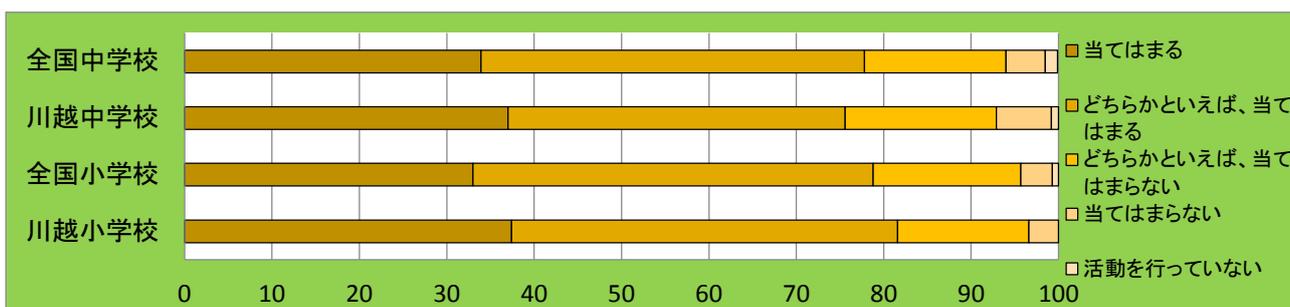
Q：今まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



Q：今までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



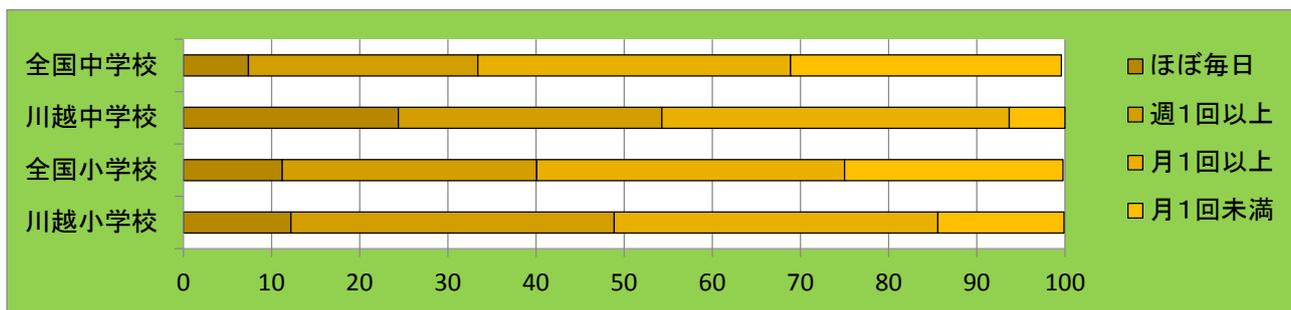
Q：児童・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



## ⑨ ICT機器の活用

\*小中学校共にICT機器の活用は全国の割合を上回り、週1回以上使っている割合は50%前後となっている。

Q：今までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。



### (4) 学校質問紙の結果からみえる児童生徒の姿

#### ① 言語活動の充実を意識した取り組み（表現する力・書く力の向上）

「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか」という問いに対して、全ての学校が「よくしている」と回答している。また、国語科では「これまでに目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか」という問いや算数・数学科での「これまでに、問題の解き方や考え方の過程がわかるように工夫してノートを書く指導を行いましたか」という問いに対して、全ての学校が肯定的な回答をしている。一方、児童生徒質問紙の国語科と算数・数学科の「解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように回答しましたか。」の問いに対して「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童は、国語科で85.7%、算数科で82.3%と高い割合を示している。生徒も国語科で78.7%、数学科で69.3%となっており、全国の値を上回っている。このことから、日々の授業で児童生徒に考え、表現させる時間を確保した取り組みが進められ、子ども達の表現する力や書く力の向上に繋がっていると考えられる。

#### ② 「何を学ぶか」「どのように学ぶか」（「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業）

「これまでに授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童・生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れえましたか」という問いに対して、小中学校の全ての学校が「よく行った」と回答している。授業で「めあて」を示すことで学習者に対して「何を学ぶか」を明確にすることができ、児童生徒に見通しを持って粘り強く取り組む力をつけることができていると考えられる。一方、児童生徒質問紙において「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という問いに小学生の76.9%、中学生の72.4%が肯定回答であった。授業での振り返りの活動は位置づいているが、振り返る内容を充実させ、児童生徒自身が自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力をつけていく必要があると考えられる。

#### ③ 自己肯定感・自己有用感の育成（自尊感情）

「これまでに児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか」という問いに対して、小中学校の全ての学校が肯定的回答であった。一方、児童生徒質問紙において「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに小学生の73.5%、中学生の76.6%が、肯定的回答であったが、小学校では前回から9ポイント減少している。

クロス集計によると、各教科において「自分にはよいところがある」と回答している子ども

の方が正答率も高いという結果が出ている。自尊感情の育成には、個々の児童生徒が学習の場面において「できた」「わかった」という満足感や充実感を持つことや、学校生活での仲間とのかかわりの中で、認められることや受け入れられることが重要な要素になると考える。主体的・対話的で深い学びと自尊感情の高まりは相乗効果を促すと推察される。一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、よいタイミングで評価や承認を行うことが自己肯定感・自己有用感の育成につながる。



## 2. 学力・学習状況調査結果の「弱み」を改善するための対策

### 全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つきたい力を明確にし、児童生徒自身が「何ができるようになるか」を明確にしながら「何を学ぶか」という学習内容だけでなく、「どのように学ぶか」という学習課程を重視した授業改善を進める。

1. 「めあてとふりかえり」（目標の提示、振り返り活動）のある授業の徹底を図り、子どもたちが一時間の授業の中で「できた・わかった」と実感が持てる学習へつなげる。
2. 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。
3. 自分の考えや必要な情報を整理して書く力をつけるための指導を行う。
4. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

### 国語

#### 1. 書くことの指導の充実

- ・書く活動において、児童生徒の興味関心に応じた題材を設定したり、目的や相手を明確にしたりすることで、児童生徒が主体的に取り組めるように工夫する。
- ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。（国語に限らず他教科においても「条件を与えて書く」活動を行っていく）
- ・自分の考えを書く活動では、主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係に気を付けながら文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であることに気づくことができるよう指導する。

#### 2. 語彙（ごい）を豊かにする指導の工夫

- ・文脈に即した漢字や語句を習得するために、例文やフレーズで覚える学習を取り入れる。
- ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりするなど、各校において読書活動や学校図書館での活動を工夫する。

#### 3. 自分の考えをまとめる活動の充実

- ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふりかえりの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。発達段階や内容に応じて、字数制限やキーワードを提示するなどの条件を与えて書かせるようにする。
- ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。
- ・学習したことが日常生活につながっていることを意識できるような授業づくりを心がける。

#### 4. 文章の中の大切な文や語句に着目しながら、文章全体を捉える力をつける

- ・文章中の大切な文や語句に着目しながら読み進め、大まかな「あらすじ」をつかんだり、文章を要約したりする学習活動を行う。

## 算 数 ・ 数 学

### 1. 基礎的な力をつける時間の確保

- ・基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。

### 2. わかる授業を目指した授業展開の工夫

- ・社会の事象や数学の事象から課題を見出し、児童生徒が主体的に取り組める授業を展開していく。また、算数・数学の時間に学習したことを日常生活の中で活用できるように工夫する。
- ・算数・数学用語、数学的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
- ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
- ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。

### 3. 図形の性質や構成要素を正しくイメージし理解できるような工夫

- ・実際に具体物を使って操作させるなど、経験させる活動時間をしっかりと確保する。
- ・「図形イメージの確認や理解」を視覚的に理解しやすくするために ICT 機器の活用を積極的に行う。



### 3. 町教育委員会による手立て

#### (1) 少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的・基本的な力の向上を目指します。

#### (2) きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員及びALTの配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人一人の子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

#### (3) 学力向上推進委員会の開催

川越町学力向上推進委員会において、各学校の児童生徒分析や取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

#### (4) 校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教育委員会の指導主事、学力向上アドバイザーが各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を進めます。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

#### (5) 家庭学習および読書活動の推進

各校が配付している家庭学習の手引きやシラバス（授業計画）をもとに、家庭学習の定着に向けた取組を進めていきます。また、「読書旅行（読書日本一周・読書世界一周）」の取り組みを推進し、小学校低学年から本に触れ合う機会を増やし、語彙量（ごいりょう）を増やしていきます。

#### 『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成

2019年4月に改定しました川越町教育基本方針で示した通り、川越町は【『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成】を基本方針としています。

『豊かな心』を培うために必要なこと（3つ）、

「非認知能力を高めること」

「個性を大切にすること」

「相手の個性を尊重すること」

を大切にし、教育活動を行います。

